

## ■学校経営のポイント

### 豊かな心の育成と学力向上

小島 宏

学習指導要領の総則に「道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、……」と示されている。

#### 生活指導と行動の記録

生活規律や学習ルールを徹底させたら学力が向上したという報告をよく耳にする。学力が低迷していたが、基本的な生活習慣や学習ルールの確立により落ち着いた学校生活と授業が回復し、以前より学力は向上したというのである。ところが、基本的な生活習慣や学習ルールが確立しているにもかかわらず、学力が思うように伸びないという学校も少なくない。

つまり、基本的な生活習慣や学習ルールの確立は必要条件ではあるが、十分条件ではないのである。一定のレベル以上の学力向上と学習力育成のためには、教師の質の高い授業展開が不可欠ということである。そこで、校長は、校内研究・研修の充実と教師の自発的研修を奨励していく必要がある。

なお、蛇足になるが、指導要録「行動の記録」の内容は、基本的な生活習慣や道徳教育の指導内容に関連しているので、評価項目及び学年の趣旨（平成22年5月11日「文科省通知」別紙5）を参考にし、指導を進めると生活指導にも効果的である。

#### 道徳教育と道徳の時間の授業

ところで、道徳の時間の授業が、学校における道徳教育そのものであると誤解してはならない。

学習指導要領第3章道徳に示されている内容について、各教科等の特質に応じて行った道徳の指導を、道徳の時間に「補充し、進化し、統合する」という全体構造を再確認する必要がある。その際、①各教科等の目標の実現、②学習活動や学習態度への配慮、③教師の態度や行動による感化（教師は指導者でありかつモデルにもなっている）が重要である。

つまり、各教科等において①～③を意識した適切

な指導が行われているからこそ、道徳の時間における「補充・進化・統合」が効果的に行われ、道徳の時間が文字通り要となって学校における道徳教育が充実していくのである。

#### 道徳教育の重点

豊かな心の育成即ち道徳教育においては、小学校では、「基本的な生活習慣、社会生活上のきまりを身に付け、善悪を判断し、人間としてしてはならないことをしないようにすることなど」を重視する必要がある。また、中学校では「自他の生命を尊重し、規律ある生活ができ、自分の将来を考え、法やきまりの意義の理解を深め、主体的に社会の形成に参画し、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けるようにすることなど」が重点となる。そして、全ての人間や生命あるものを尊重し、大切にしようとする心に根ざして、思いやりや向上心、公德心などの道徳的価値を形成していくことが大切である。

#### 各教科等における充実した授業

つまり、各教科等の特質や目標に応じて、充実した授業が行われ、様々な視点から自分を見つめ、生き方を考えられるようにしていくことが求められるのである。このことが児童生徒の個人としての生き方にとどまらず、人間・人類の文化生活や社会生活を根底から支えるものになっていくと考えられる。

#### 児童生徒の学力向上

自己を見つめ将来の希望や目標を持つことは、学ぶ意欲・向上心を促し、主体的な学習態度を誘発し、学力向上をもたらしていく。また、不得意を克服しようとする克己心にもつながっていく。

さらに、思いやりの心は学習集団の中に安心や安定の雰囲気醸成し、学び合いを可能にしていく。

（こじま・ひろし＝一般財団法人教育調査研究所研究部長）

●できる教頭(副校長)必携の“読む”手帳, 携帯に最適なポケットサイズでついに完成!

## 『教頭の仕事〈基本手帳〉』

【編】寺崎千秋(一般財団法人教育調査研究所研究部長) 四六判変型・180頁/定価1995円